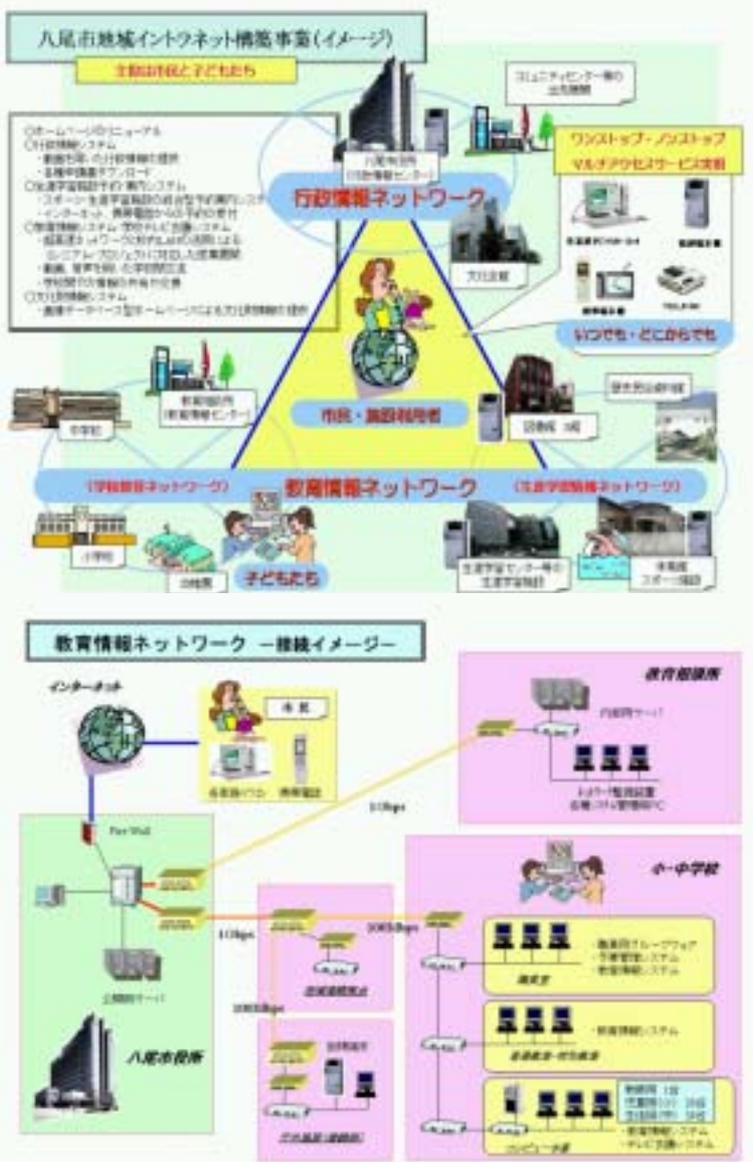


八尾市学校教育ネットワークの構築

八尾市教育相談所 指導主事 渡邊 益己
 yao6304@city.yao.osaka.jp
 http://edu.city.yao.osaka.jp/

1. 八尾市地域イントラネット構築事業及び教育情報ネットワークの概要



八尾市では、これまでもホームページを中心とする情報サービスや学校のインターネット接続などの情報化事業に組んできたが、近年のIT技術の進歩、ブロードバンド回線の普及などにより、情報技術を用いた行政サービスや教育への関心は急速に高まってきた。そのようなニーズに対応するため、平成14年度事業として、公共施設および学校などの教育施設を光ファイバーによる超高速ネットワークで結び、また、それと同時にホームページのリニューアルや、さまざまな新しいサービスを開始し、情報サービスの利便性と子どもたちの教育環境の向上を図った。

本事業は約8億5000万円の総事業費であり、その一部は平成13年度第2次補正における総務省「地域イントラネット基盤施設整備事業」の補助を受けている。事業の推進は、行政分野を企画調整部情報政策課、教育分野を八尾市教育相談所が担当した。

そして八尾市教育委員会では、「八尾市地域イントラネット整備事業」における教育分野におけるネットワークを「教育情報ネットワーク」とよび、教育相談所内に設置された「教育情報センター(仮称)」を中心にその整備を進めている。主なものに、スポーツ施設や生涯学習施設の予約ができる「生涯学習施設予約・案内システム」、八尾市内の文化財の検索ができる「文化財情報システム」、学校における授業を支援する「学校教育システム」がある。は教育委員会ホームページから利用ができる。

2. 学校教育ネットワークシステム

すべての教室からインターネットに接続

すべての学校に光ファイバーによる高速インターネット環境と校内LANを整備した。子どもたちが情報を収集したり、情報を発信したりすることを通して、学習意欲を培い、的確に表現するなど判断力・表現力を育てる。また、子どもたちにとって有害だと思われるサイトへの接続はできないような仕組みになっている。

各教科でデジタル教材を活用

高速ネットワークの活用により、17000点以上の動画・画像を用いた学習教材を各学校に提供し、わかりにくい抽象的な概念や思考過程をわかりやすく示すことで理解を助けたり、子どもたちの好奇心や探究心を呼び起こし、興味を持たせることで「わかる授業」を実現する。

コミュニケーションを大切に授業の実現

電子メールや電子会議室、テレビ会議などを活用して、他の地域や外国の人との交流を深めることにより、国際的な

感覚も身につけるとともに多様な文化・慣習やいろいろなものの見方・考え方を知り、相互の理解や考察を深めることができる。

3. 教育用グループウェア（八尾スクールネット）の特長

- お知らせ・・・教育相談所、教育委員会からの情報を提供。
- 会議室・・・学校間でテーマを決めて会議ができる。ファイルを添付も可。
- 掲示板・・・4つの部屋を設置しています。各学校間での情報提供、意見交換、情報収集に使用します。
- ディスカッション・・・いわゆるチャットです。10個の部屋を用意しています。
- ライブラリー・・・デジタルコンテンツを活用しやすいようにデータベース化。キーワード等を使って検索できる。
- 情報BOX・・・教育相談所や学校に蓄積された文書や指導案をデータベース化しています。
- TV会議（双方向コミュニケーション・・・各学校のパソコンとテレビ会議用カメラ、マイクなどを利用したTV会議。

4. 授業の情報化に向けた取り組み（デジタルコンテンツ開発と活用）

子どもたちの感性に訴え、授業の理解を助けるうえで、教師が授業で使いたい教材・素材を提供する。また子ども達自身が、自ら学習を進めていきやすく手軽に活用できるコンテンツを提供したいと考えた。

デジタルコンテンツ作成の基本的な考え

ア. 八尾市学校教育地域素材コンテンツの考え方

- ・八尾市の歴史・文化・自然・産業等の特性を活かしたコンテンツ ・地域に誇りを持たせる内容にする
- ・環境や人権、福祉などの現代的な課題に学習にも対応できる。
- ・上質で使いやすい素材の提供配信、使い方については学校現場多用途に使える

イ. コンテンツの構成・・・15秒から30秒前後の動画を中心に、数十個でコンポーズする。

ウ. コンテンツのテーマ

- ・暮らしをささえる水 ・暮らしとごみ ・久宝寺寺内町 ・埋蔵文化財センター ・八尾の遺跡・常光寺と八尾祭り
- ・河内音頭 ・河内木綿 ・八尾の自然 ・八尾の産業 ・大和川と自然

組織としては

ア. 八尾市研究協力員チーム（情報部会・理科部会）

イ. 学校インターネット1チーム（小2・中6）

ウ. デジタルコンテンツ活用高度化事業によるチーム（小3・中2）（H12,13年文部科学省委嘱「学習資源デジタル化・ネットワーク化推進事業」）の3つのグループがある。

配信について

ア. C E Cの提供する17,000の教育用画像素材集をデータベース化（各教科毎に検索可能）した。このことにより、教師が授業に直接活用できるようになった。

イ. 授業内容に即したポータルサイトでの配信も行っている。これは素材のまとまりが入っているトップページを提示しておいて、そこから児童達が自分で検索をすることができる。このため、子どもたちにも自分自身でコンテンツを使って学習を簡単に進めていくことができる。

5. 情報教育に関する研修講座（新たな試み）

平成17年度までにコンピュータを使って指導できる教員100%達成を支援するために、アンサー研修（個人のニーズにあった研修）を行った。平日は午後4時30分から7時30分、土曜は朝9時から1時までとした。これは研修開始時間を自分で自由に設定でき、参加者が自分に必要な研修課題を自分で選択し自分のペースで研修できる。また初心者から専門的な課題にまで対応したコンサルテーションを行い専門A Dがきめ細かな指導を行っている。

6. 今後の課題として

ア. デジタルコンテンツ活用授業のための学習素材アーカイブの開発

（授業案・教材・問題・学習プリント・素材・関連WEB等）

イ. 使いやすいデジタルコンテンツ開発のための各教科・領域プロジェクトの推進

ウ. デジタルコンテンツ活用授業のため授業実践プログラムの研修

エ. デジタルコンテンツ活用型授業の評価・効果の検証 等がある。